

令和2年11月25日

関係各位

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学講座
教授 片瀨秀隆

拝啓

今年のノーベル医学生理学賞は残念ながら期待されていた日本人の手に渡ることはありませんでした。しかし、C型肝炎ウイルスの発見に寄与した3名の学者に授与されたのは、世界中が新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の惨禍の中にあることも影響したのではと思ってしまう。人類の歴史は感染症との戦いと言っても過言ではありません。私が医学生時代のウイルス肝炎はA型とB型のみでした。医師になった頃、主に輸血後に発症する非A非B型と呼ばれていた肝炎はやがてC型となり、今や抗ウイルス剤で多くの肝硬変や肝臓がんが阻止される時代になり、隔世の感があります。

大阪大学病理学の仲野 徹教授が医学雑誌のエッセイの中で、芥川賞作家のひとりである釣り師としても有名だった開高 健が残した代償の法則を語っていました。「何かを得れば、何かを失う、そして何ものをも失わずに次のものを手に入れることはできない」、またフランス語の“noblesse oblige”を開高は「位高ければ、務め多し」と翻訳したと紹介しています。2年ほど前から公の仕事が徐々に減ってきて、少しばかりの余裕をタクシーの中で実感することが多くなりました。それまでは、出張先でタクシーに乗るやいなやPCのインターネットに接続し、続々と送信されてくるメールの確認と返信に追われていました。運転手さんもこの乗客の雰囲気を感じてか会話は殆どありませんでした。ところがいずれも昨年のことです。出雲で乗ったタクシーの運転手さんは車窓から街の様子を眺めている私を伺って、天皇家と出雲大社の歴史を事細かに説明してくれました。京都では、運転手さんが通院している病院のことをたまたま知っていたことで話が弾み、彼の名刺を渡され、また使ってやの言葉で別れました。名前も忘れてしまった沖縄の運転手さんの携帯電話の番号は今もしっかり保存されています。今年になってたまたま乗る市内のタクシーの運転手さんの誰もが私に気さくに話しかけてきます。一度しか会わないかも知れない運転手さんの家庭の事情や人生観まで知ることになり、何故か和やかな時間です。失ったものを少しずつ取り戻している様な気がします。

12月と新年1月の予定表を同封致しました。恒例の忘年会は中止と致しました。教室と熊本市民病院の合同開催だった昨年の忘年会が遠い昔に感じます。ご自愛下さい。

敬具